

1 部局名

都市教養学部 人文・社会系

2 学長指定課題

分野を超えた共通科目・横断型教育プログラムの設置など、カリキュラム改革の推進

3 事業名

人文・社会系共通科目・共通プログラムの設置等による教育課程・教育方法改善

4 事業実施代表者名

人文・社会系長 乾 彰夫

(成果報告者 平成 29 年度 人文・社会系長 平井 博)

5 事業の概要

人文・社会系は、人文学・社会科学諸領域の専門教育を通じて人間・社会・文化への深い洞察力・判断力を育て、ひいては社会人としての基本的力量を身につけることを目標としている。人文学・社会科学は対象・方法によりディシプリンが分かれており、これらの目標を達成するためにそれぞれのディシプリンに沿った教育の充実が必要であると同時に、人文学・社会科学共通の基礎を身につけることが重要である。さらに学生の国際的な移動が容易かつ活発化する現状において、留学等による国際的な学びを促進し支援していくことが求められる。

上記のような課題をより有効に達成するためには、(A)教育課程上、人文・社会系の共通プラットフォームの構築とそこでの学生の学びを充実させていくこと、その際、国際化に対応した諸施策・プログラムをそのもとに組み込むこと、(B)各分野の専門教育における学びを一層充実させることが求められる。これらの課題に対応した事業を実施する。

○ (A)の課題に沿った事業

- ①人文・社会系共通科目ならびに共通プログラムの開発
- ②人文・社会系共通科目および基盤科目における能動的学習の展開
- ③外国人留学生への日本語指導の改善

○ (B)の課題に沿った事業

- ④専門教育の充実を図る方策を検討するとともに、その一環として TA 配置などの試行

6 事業の成果

①人文・社会系共通科目の開発・実施

- ・すでに実施中の科目「人間・社会・文化」(オムニバス授業)に加え人文・社会系のさまざまな学問領域に共通するアカデミックスキルを学ぶ目的で学部横断型教養科目の3科目の新設を検討した。その結果、「文学概論」を教養科目として H28 年度に導入した。「言語・思考・行為」を基盤科目として学部発足時に導入する。残り1科目「社会に生きる人間」は引き続き設置に向け検討することとなった。
- ・英語圏は言うに及ばずアジア・ヨーロッパ地域への留学をも視野に入れたグローバルスタティズ・プログラムの開発として、復旦大学、ウイーン大学、レンヌ大学等のアジア・ヨーロッパ地域との学生交換・交流の促進を図った。今後は、海外の大学との教育交流を拡大していくと共に教育

プログラムの開発をより進めていく必要がある。

②人文・社会系の共通科目・基盤科目における能動的の教育改善

- ・幅広い科目の履修を通し他分野科目の履修が一定の水準にある。また専門科目における演習・実験・実習科目の配置、また卒業論文を必修にしているなど能動的学習を行う一定の機会と水準を確保している。しかしながら、教育課程上必ずしも明示的に示されていない。今後は、能動化を促進に向け更なるきめ細かい指導と新たな教授・学習法の開発を検討する必要がある。

③留学生への日本語指導

- ・人文・社会系において中国・韓国等の留学生を中心に増加傾向にあることから、各教室内で日本語文献購読、レポート・論文執筆の指導を行っている。H26年度教育改革推進事業学内提案分事業と連携し日本語指導の検討を行ったが引き続き系統的・段階的な指導の在り方を検討していく必要がある。

④専門教育の充実を図る方策の検討

- ・TA活用により授業改善は図られている（教員アンケート調査実施）。今後は、どの授業（演習・実験・調査実習）、また学生規模等において有効であるか、さらにはどのような教授・学習方法が望ましいかの検討・開発が必要である。

⑤教育改革推進事業の公表

- ・教育改革推進事業にて、一定程度の成果があるが当初設定した目標達成まで達していない。とりわけ新学部発足に向けた検討と合意形成に時間を要したため映像媒体や印刷媒体（人文・社会系ビデオ作成や印刷物）は本期間内（H26年度～H28年度）で実施できず、次年度以降に先送りとする。
- ・また積み残し案件については、引き続き人文・社会系組織内でWG等を設置し検討を行うこととする。